

## 日本体力医学会学会賞の受賞論文

### 学会賞（体力科学）：

一過性の上肢の有酸素性運動と骨格筋電気刺激の併用が  
動脈ステイフネスに及ぼす影響

石川 みづき<sup>1</sup>, 三浦 哉<sup>2</sup>, 東 亜弥子<sup>1</sup>, 出口 憲市<sup>3</sup>, 田村 靖明<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>徳島大学大学院総合科学教育部,

<sup>2</sup>徳島大学大学院社会産業理工学研究部,

<sup>3</sup>徳島県鳴門病院リハビリテーション部

### 学会賞（JPFMSM）：

**Effects of combined therapy of ACE inhibitor and exercise on cardiovascular functions and morphology of the heart and kidneys in SHR**

Masato Suzuki<sup>1</sup>, Noriko Hozumi<sup>2</sup>, Hidefumi Waki<sup>3</sup>, Masaki Kimura<sup>4</sup>, Tetsuya Seino<sup>5</sup>,  
Naoko Onuma<sup>6</sup> and Daisuke Shindo<sup>6</sup>

<sup>1</sup>Jikei University School of Medicine,

<sup>2</sup>Japan Fitness Association,

<sup>3</sup>Department of Physiology, Graduate School of Health and Sports Science, Juntendo University,

<sup>4</sup>Department of Pharmacotherapeutics, Keio University,

<sup>5</sup>National Institute of Technology, Kisarazu College,

<sup>6</sup>Laboratory of Health and Sports Science, Department of Pharmacy, Nihon University

### 奨励賞：

**Effects of bilateral lesions in the central amygdala on spontaneous baroreceptor reflex in conscious rats**

Kei Tsukioka, Ko Yamanaka and Hidefumi Waki

Department of Physiology, Graduate School of Health and Sports Science, Juntendo University

## 第33回日本体力医学会学会賞選考を振り返って

学会賞選考委員長 前田 清司

学会賞を受賞されました先生方におかれましては、誠におめでとうございます。さて、日本体力医学会学会賞は、毎年、「体力科学」および「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFMSM)」に公表された論文の中から、学会賞と奨励賞に相応しい論文を選定しております。学会賞は「体力科学」と「JPFMSM」に公表された学会員が筆頭著者の論文からそれぞれ一編、奨励賞は両誌に公表された論文の中から若手学会員が筆頭著者の論文を一編選定しております。今回は、昨年に「体力科学」と「JPFMSM」に公表された論文から極めて高い評価を受けた論文一編ずつが学会賞、若手学会員が筆頭著者の論文の中から高い評価を得た一編が奨励賞として選定されました。いずれの論文も学会賞選考委員から高評価を受けた論文になります。今回の受賞論文の表彰および講演は、来年の第76回日本体力医学会大会（三重）にて行われる予定です。

日本体力医学会は、国内外における体力ならびにスポーツ医科学の研究の進歩、発展を促進させる使命を担っています。これを実現する上で、学会機関誌である「体力科学」と「JPFMSM」は重要な役割を果たしています。学会員の先生方におかれましては、先生方の素晴らしい研究結果を「体力科学」あるいは「JPFMSM」に積極的にご投稿いただき、国内外の体力ならびにスポーツ医科学の研究の推進・発展に貢献いただければ幸いです。学会員の先生方にとって、学会賞の受賞が憧れとなり続けることを祈念いたします。

## 一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2020年5月）議事録

日 時：2020年5月15日（金）～2020年5月22日（金）

場 所：電子メールによる審議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、

碓井外幸、西平賀昭各副理事長、

武政 徹常務理事、赤間高雄、井福裕俊、

太田 真、大野 誠、栗原 敏、後藤勝正、

小山勝弘、須田和裕、永富良一、成田和穂、

浜岡隆文、前田清司、宮内 卓、宮川俊平、

和気秀文各理事、井上 茂、清田 寛、

小林康孝、定本朋子各監事、

徳田修司第75回大会長、

加藤 公第76回大会長

欠席者：下光輝一、新開省二、須永美歌子、竹森 重、

田中喜代次、中里浩一各理事

### 【審議事項】

#### 1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会開催中に前回の理事会議事録の内容確認を行い、訂正等がある場合には申し出て頂くこととし、理事会終了後に承認することにした。

#### 2. 令和2年度決算見込みについて（鈴木理事長）

資料に基づき、令和2年度決算見込みについて、報告された。収入84,071,302円は見込みであるが、予定通りの収入となれば、令和2年度決算見込の収支差額は、1,094,648円の黒字となる旨、説明された。

#### 3. 令和3年度予算案について（鈴木理事長）

資料に基づき、令和3年度予算案について報告された。新型コロナウイルス感染拡大防止策の影響で、学会年次大会（鹿児島大会）のWeb形式への変更やスポーツ医学研修会中止により、令和3年度予算原案収入額は59,090,500円となり、令和2年度決算見込み額（84,071,302円）の約70%（24,980,802円の減額）になることが報告された。一方、支出の大会開催予算額16,178,000円については、令和2年度決算見込み額（38,744,636円）の42%に留まることが報告された。また、新規事業企画に伴う費用の明細が報告された。令和3年度予算案の収支差額は、653,500円の赤字が見込まれるが、今後も学術活動等の自粛が継続されれば、それに伴う経費の減額が予測され、赤字額は縮小することが見込まれる旨、加えられた。

#### 4. 令和3年度事業計画案について（鈴木理事長）

資料に基づき、令和3年度事業計画案についての報告があった。審議の結果、承認され、9月の社員総会に諮ることになった。

#### 5. 新型コロナウイルス感染症予防対策に伴う日本体力医学会健康科学アドバイザー®称号の有効期間の延長について（碓井称号委員長）

日本体力医学会健康科学アドバイザー®称号の有効期間は5年間で、この間に10点の研修単位取得が必要

であるが、新型コロナウイルス感染症予防対策施行により、スポーツ医学研修会、各地方会および関連学会が中止になり、単位取得が困難になった。そのため、有効期間5年間に2020年度分を含めないことが提案され、承認された。

#### 6. 第33回日本体力医学会賞選考委員会選考結果について（前田学会賞選考委員長）

資料に基づき、選考結果が報告された。4月27日にメール審議にて開催された学会賞選考委員会において、学会賞【体力科学】、学会賞【JPFMS】および【奨励賞】候補の3件を選考したことが報告され、承認された。

##### 【学会賞（体力科学）】

68巻-3号-①（体力科学）

石川みづき、三浦 哉、東 亜弥子、出口憲市、田村靖明

一過性の上肢の有酸素性運動と骨格筋電気刺激の併用が動脈ステイフネスに及ぼす影響

##### 【学会賞（JPFMS）】

8巻-5号-6

Masato Suzuki, Noriko Hozumi, Hidefumi Waki, Masaki Kimura, Tetsuya Seino, Naoko Onuma, and Daisuke Shindo

Effects of combined therapy of ACE inhibitor and exercise on cardiovascular functions and morphology of the heart and kidneys in SHR

##### 【奨励賞】

8巻-1号-5（JPFMS）

Kei Tsukioka, Ko Yamanaka, and Hidefumi Waki  
Effects of bilateral lesions in the central amygdala on spontaneous baroreceptor reflex in conscious rats

尚、例年、年次学会大会時に“日本体力医学会学会賞受賞論文表彰および講演”が企画されているが、今年度の第75回（鹿児島）大会は“Web学会大会”に変更されることに伴い、学術委員会より、上記3件の“学会賞受賞論文表彰および講演”は来年度に延期するが、副賞（賞金）は今年度授与し、当該年度決算とする旨、提案され、了承された。

#### 7. 編集委員の追加について（後藤編集委員長）

資料に基づき、下記2名の編集委員の追加が提案され、承認された。

向井直樹（筑波大学准教授）

植原健二（聖マリアンナ医科大学講師）

尚、この2名の編集委員としての任期は、現行編集委員の残り任期と同じになる。また、「ORCID」および「Publons」に関する説明があったが、この件に関しては継続審議となった。

### 【報告事項】

#### 1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、以下の内容が報告された。

1. 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況  
 <投稿状況>

(2019年9月1日～2020年4月23日)  
 「JPFMS」誌：新規投稿36編（内海外4編）  
 ※前年同期間：新規投稿35編（内海外4編）  
 4/23現在、審査中17編（採択12編、不採択5編、  
 原稿取下げ2編）  
 ※受付不可5編（投稿規定に沿わない等で原稿  
 返却、国内1編、海外5編）  
 「体力科学」誌：新規投稿34編  
 （依頼総説1編、依頼教育講座3編含む）  
 ※前年同期間：新規投稿42編  
 （依頼教育講座2編含む）  
 4/23現在、審査中12編（採択9編、不採択3編）

<発行予定>

「JPFMS」誌  
 ○Vol. 9, No. 3（2020年5月25日発行）  
 掲載論文6編  
 ○Vol. 9, No. 4（2020年7月25日発行）  
 掲載論文6編  
 ○Vol. 9, No. 5（2020年9月25日発行）  
 4/23現在、掲載論文2編  
 「体力科学」誌  
 ○Vol. 69, No. 3（2020年6月1日発行）  
 掲載論文6編

○Vol. 69, No. 4（2020年8月1日発行）

4/23現在、掲載論文3編

2. 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）  
 2020年度ジャーナルコンサルティングに応募  
 DOAJへの収録支援

2) 渉外委員会（永富渉外委員長）

資料に基づき、2019-2020年度国際学術交流奨励  
 賞の募集要項案が報告された。

3) 第75回（鹿児島）大会の進捗状況  
 （徳田第75回大会長）

新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たない  
 現状に於いて、第75回日本体力医学会大会（鹿児島  
 大会）の通常開催は困難であるとの判断から、Web  
 による大会開催に変更する旨の報告がなされた。

会 期：2020年9月24日（木）～26日（土）

4) 第76回（三重）大会の進捗状況  
 （加藤第76回大会長）

資料に基づき、大会の準備状況等について報告さ  
 れた。

会 場：三重県総合文化センター

会 期：2021年9月17日（金）～19日（日）

テーマ：「知の継承と共有」

持久走大会コース：三重大学構内

## 日本女子体育大学附属基礎体力研究所 第31回公開研究フォーラム 「基礎体力を考えるー研究所開所30年の節目にー」

日 時：2020年12月5日（土）13：00～16：00

実施形式：オンライン開催

参加方法：お問い合わせ先のアドレスに参加希望をご連絡ください（参加費無料）。後日、オンライン参加方法をお知らせいたします。

お問い合わせ先：E-mail：kisotai@jwcpce.ac.jp

### プログラム

- 
- 13：00～ 開会のあいさつ 深代 千之（日本女子体育大学学長）
  - 13：15～14：00 セッションⅠ <講演> 星川 佳広（日本女子体育大学基礎体力研究所所長）
  - 14：00～14：30 セッションⅡ <基礎体力研究所の成果>研究発表
  - 14：30～15：45 セッションⅢ <基調講演> 山川 純（日本女子体育大学名誉教授）
- 

※新型コロナウイルスの感染状況に伴い、実施形式やプログラムに変更が生じる場合があります。

## 編 集 後 記

体力科学69巻5号をお届けします。本号は総説論文1編, 原著論文2編, 資料1編, 教育講座2編, JPFISM (Vol. 9, No. 5, 2020) の抄録などで構成されています。競技者の傷害予防から高齢者の健康増進まで幅広い領域が含まれる日本体力医学会らしいラインナップで、いずれも興味深く、著者の熱意を感じる玉稿です。ぜひ、じっくりとご覧ください。論文を投稿してくださいました著者の皆様、ご多忙の中、査読をご担当いただきました先生方に心から感謝いたします。引き続き、会員の皆様には体力科学およびJPFISMへのご投稿をお願い申し上げます。

私事ですが、昨年11月に編集委員を拝命しました。これまで査読者として本誌の編集に携わる機会がありましたが、編集委員になり、投稿された論文に接する心境に変化がありました。具体的に申し上げますと、「査読を通してより良い論文になって欲しい」という思いに、「できるだけ多くの論文を掲載したい」という気持ちがありました。本誌は投稿者を学会員に限ってはいませんが、会員の研究成果を発信することは学会誌に課せられた重要な使命です。ぜひ、皆様方の研究や実践の成果を発表する場として、本誌やJPFISMをご活用ください。皆で力を合わせて学会誌を、そして、日本体力医学会を盛り上げましょう！

しかし、編集委員や査読者が前向きな気持ちで査読に取り組んでも、投稿された論文を全て掲載できるわけではありません。私が担当した中にも、残念ながら不採択になってしまった論文もありました。いずれも貴重なデータでしたが、実験内容が研究目的と乖離していたり、結果の解釈に飛躍があったりすると、査読者は良い評価をしにくく、編集委員としても採択が難しくなるように思います。自戒の念を込めて申しあげますが、苦勞して取得されたデータですから、投稿する前に、第三者の批評を受けるなど客観的な視点を交えて、じっくりと論文を練りあげることをお勧めします。

9月24日に第75回日本体力医学会大会（鹿児島）が始まります（本稿は9月上旬に執筆しています）。web開催という前例のない大会で、実行委員会にはこれまでにないご苦勞があると存じます。大会長の徳田修司先生をはじめとする関係の先生方に厚く御礼申し上げます。しかし、参加にあたり移動や宿泊が不要であるなど、webならではのメリットもあります。一人でも多くの方が参加され、皆様と活発に議論を交わすことを楽しみにしています。

大 槻 毅

### The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.69, No.5

#### 体 力 科 学 第 69 巻 第 5 号

令和 2 年 9 月 25 日 印 刷  
令和 2 年 10 月 1 日 発 行

編集兼発行者  
発 行 所

編 集 事 務 局

印 刷 所

後 藤 勝 正  
一般社団法人日本体力医学会  
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13  
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内  
TEL : 03-5981-6015 FAX : 03-5981-6012  
E-mail : jspfsm@asas-mail.jp  
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1  
鶴岡印刷株式会社内  
TEL : 0235-22-3120 FAX : 0235-22-3120  
E-mail : hj-tairyoku@turuin.co.jp  
〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1  
鶴岡印刷株式会社